

甲状腺の薬（レボチロキシン）を飲む方へ

レボチロキシンは、足りない甲状腺ホルモンを補う薬です。1日1回、担当医が決めた量を毎日飲みます。鉄剤や胃薬などと同時に飲むと吸収が落ちるので、時間をずらします。よくなったと感じても、自分の判断でやめないでください。

どんな薬か

甲状腺ホルモンは、体の代謝や体温、心臓の働きを保つホルモンです。橋本病などで足りなくなると、だるさ、むくみ、寒がり、体重増加、便秘などが出ます。この薬はそのホルモンそのもので、1日1回飲みます。少ない量から始めて、血液検査（甲状腺ホルモンと TSH）を見ながら数か月かけて量を決めます。飲んでいる薬の名前は「お薬手帳」で確認できます。

飲み方で気をつけること

- ・ 毎日、決められた量を続けます。飲み忘れたときの扱いは、前もって担当医か薬剤師に確認しておいてください
- ・ 鉄剤、炭酸カルシウム、アルミニウムを含む胃薬（制酸薬）、コレステロールや高リン血症の薬の一部は、腸でこの薬と結びつき、吸収を減らします
- ・ これらは同時に飲まず、できるだけ間隔をあけます。鉄やカルシウムを含むサプリメントも、担当医か薬剤師にご相談ください
- ・ てんかんの薬（フェニトイン、カルバマゼピンなど）を使っている方は、量の調整が要ることがあります

妊娠を考えている方、妊娠した方へ

妊娠中は体が必要とする甲状腺ホルモンの量が増えます。妊娠がわかったら、次の受診を待たずに早めにご連絡ください。赤ちゃんの発育のためにも、薬を続けることが大切です。授乳中の方も、担当医にお伝えください。

自分の判断でやめないでください

この薬は、足りないホルモンを毎日補うものです。体調がよくなったと感じても、やめたり量を変えたりすると病気が悪くなることがあります。多すぎるときは、胸の痛みや締めつけ、息苦しさ、むくみが出ることがあります。心臓の病気や高血圧、糖尿病がある方は、量を決めるときに特に注意が必要です。

こんなときは相談してください

- ・ 胸が締めつけられるように痛い、息が苦しい、むくみや体重増加が急に出た、といったときは、早めに受診してください
- ・ 新しく薬やサプリメントを始めるとき、他の病院で薬をもらうときは、この薬を飲んでいることを伝えてください

この紙は、担当医の説明を補うものです。診断や治療の指示ではありません。気になることは担当医にご相談ください。

出典: PMDA 患者向医薬品ガイド「レボチロキシンナトリウム水和物」（2026年4月作成）

https://www.info.pmda.go.jp/downloadfiles/ph/GUI/470007_2431004F1056_1_01GW/470007_2431004F1056_1_01GW.htm / PMDA 添付文書「レボチロキシンナトリウム錠」（2024年6月改訂） https://www.info.pmda.go.jp/go/pack/2431004F1056_1_06/ / 日本内分泌学会 一般の皆様へ「甲状腺機能低下症」 https://www.j-endo.jp/modules/patient/index.php?content_id=38

作成: マナヴィア（MANNAVIA、現役内科医） / 最終確認: 2026/09/15 / 製薬会社の資金は受けていません / mannavia.com/leaflets/levothyroxine-daily